

I 研究主題

ふるさとを愛する「たかはるの子」の育成
～高原ならではの地域素材を生かした小中一貫教育の取組(4年次)

II 主題設定の理由

今日子どもたちを取り巻く社会は、情報化、グローバル化等により時代が急変し、地域社会や学校における人間関係が希薄なものになっている。次世代を担う若者は、将来に不安を感じ、夢や目標をもって、前向きな生き方をするのが難しくなっている。

このような社会情勢の中で、私たちが指針としている宮崎の教育創造プランにおいては、「恵まれた自然、先賢の精神、豊かな人情などの本県の教育資源を生かしながら、『確かな力を基盤とした感動と感性の教育』を推進することをとおして、『ふるさとを愛し、自分に自信と誇りを持ち、夢や希望を抱いて、社会に貢献する気概を持つ子ども』の育成を目指す」としており、創造の視点1に「ふるさと教育の充実」を挙げている。

そして、「第2期 明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト」においては、地域ぐるみの教育環境推進を基盤とし、戦略2に「地域の特性を生かした多様な一貫教育の推進」を設定しており、県内各地で種々の先進的な実践が示されていくなかで本町も積極的な取組を進めているところである。

本町は、間近に見える霧島連山や裾野に広がる田園、その間を流れる清流等の美しい日本の原風景を地域の財産として生かし、児童生徒の郷土愛を高める教育を推進していくことが、今後一層社会の変革が進む中で、最も重視すべき課題であると考えている。そのために、小中一貫教育を積極的に推進し、高原中学校区及び後川内中学校区における合同研修会や合同授業研究会等を開催する等の小・中学校が連携した取組を推し進めている。

昨年度までに、高原ならではの地域素材を生かしたふるさと学習を充実するために、総合的な学習の時間におけるふるさと学習の指導計画・学習指導過程を教育研究所で作成し、各学校で検証授業を行った。また、教科における「霧島山」を中心とした高原ならではの地域素材に関連付けたふるさと学習の指導計画・学習指導過程を作成したりして、郷土の自然や歴史、産業、伝統文化に関連付けながら学習を進めてきた。さらに、ふるさと学習で活用できる掲示物やワークシートなどの資料をデジタル化して各学校に配付することにより、児童生徒が身近な素材をもとにした発展的な調べ学習をしやすくするなど学習環境の整備も行ってきた。

本年度はじめに、町内の教職員を対象にふるさと学習に関するアンケートを実施したところ、総合的な学習の時間などの指導計画は具体的で分かりやすいという意見もあり、各学校でふるさと学習の指導計画・学習指導過程をもとにしたふるさと学習が浸透していることが分かった。しかしながら、児童生徒がふるさとについて自主的に調べることで資料が少ないという意見も多かった。そこで、本年度は、高原ならではの地域素材を生かしたふるさと学習の指導計画・学習指導過程の検証授業を実施するとともに、児童生徒向けの地域素材集の作成に取り組むことにした。

これまでの取組をもとに、ふるさと学習の指導計画・学習指導過程や児童生徒向けの地域素材などの資料を充実させていくことで、ふるさとのよさを再発見することへとつながり、「ふるさとを愛する『たかはるの子』の育成」ができると考え、本主題を設定した。

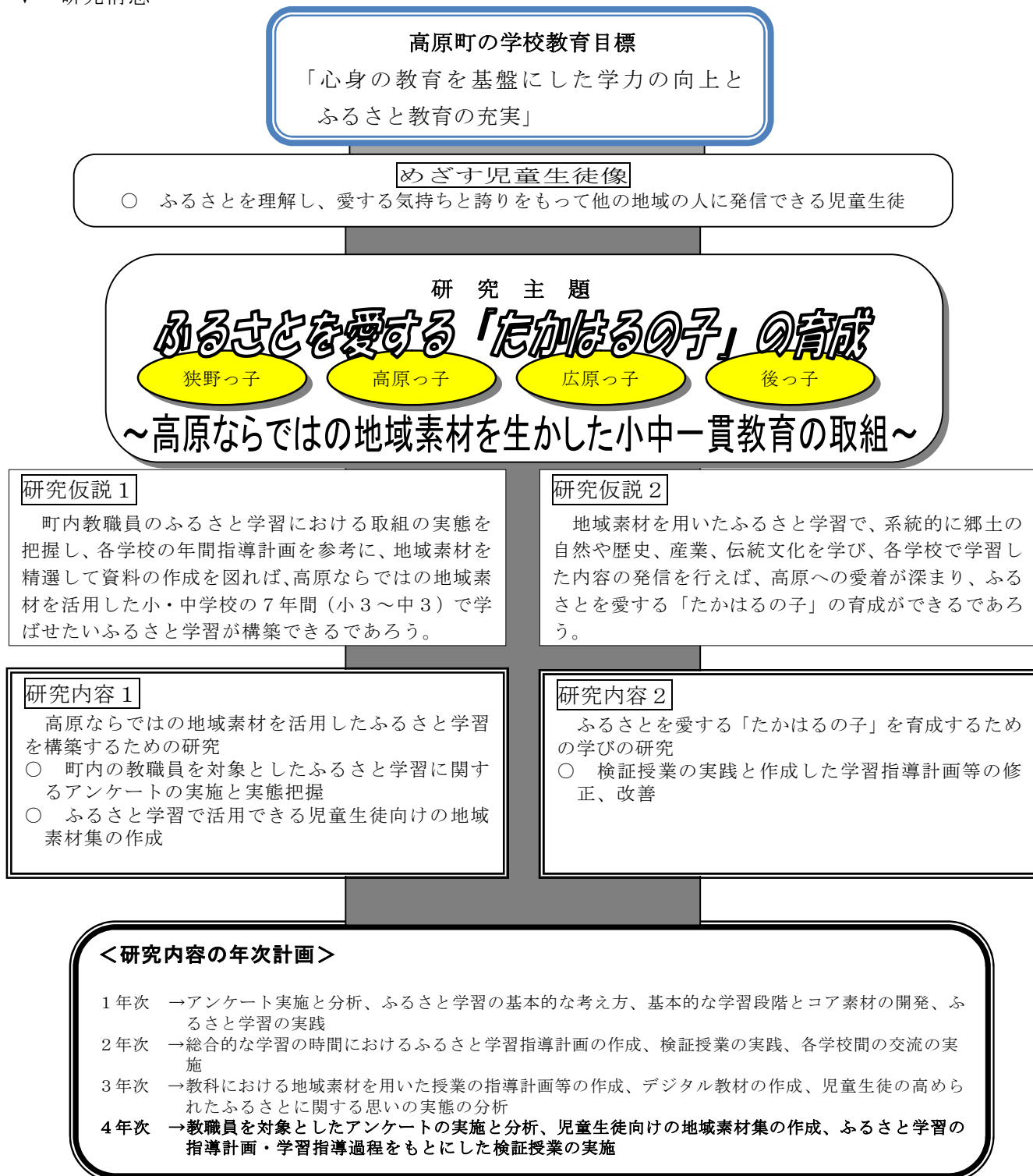
III 研究の目標

- 1 小・中学校の7年間（小3～中3）で学ばせたい、高原ならではの地域素材を活用したふるさと学習指導モデルを作成する。
- 2 小中一貫教育という視点から、地域素材で系統的に郷土の自然や歴史、産業、伝統文化を学ぶことを通して、ふるさとを愛する「たかはるの子」を育成する。

IV 研究仮説

- 1 町内教職員のふるさと学習における取組の実態を把握し、各学校の年間指導計画を参考に、地域素材を精選して資料の作成を図れば、高原ならではの地域素材を活用した小・中学校の7年間（小3～中3）で学ばせたいふるさと学習が構築できるであろう。
- 2 地域素材を用いたふるさと学習で、系統的に郷土の自然や歴史、産業、伝統文化を学び、各学校で学習した内容の発信を行えば、高原への愛着が深まり、ふるさとを愛する「たかはるの子」の育成ができるであろう。

V 研究構想



Ⅵ 研究内容

1 教職員の実態把握

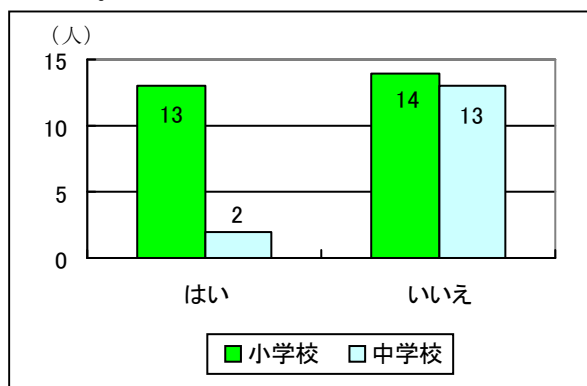
(1) アンケートの実施

本町では、平成22年度から「ふるさと学習」の研究に取り組んでおり、昨年度は児童生徒に対してふるさと学習についてのアンケートを実施した。その結果、「高原町のことが大好き」という児童生徒が増え、町のシンボル（町章・町花・町鳥・町木）や文化財などを知っているという児童生徒も増加してきた。また、総合的な学習の時間や各教科におけるふるさと学習の学習指導過程や教師向けの地域素材集を作成し、各学校に配付、活用できるようにしてきた。そこで本年度は、それらの資料の活用状況や改善点などを見出そうと、教職員にアンケートを実施した。以下はその結果である。

調査月：平成25年6月

回答者（小学校27名、中学校15名、計42名）

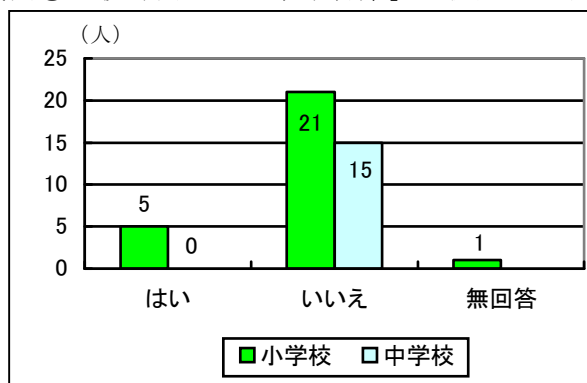
質問①「総合的な学習の時間」や「各教科」の学習指導過程を活用して授業を行ったか。



○ 「いいえ」と回答した27名のうち、21名は町内勤務1年目または、授業を受け持っていないという回答であった。

○ 活用しての意見としては、「具体的で分かりやすかった。」という意見の一方、「5時間では足りない。」という意見もあった。

質問②「教師向けの地域素材集」を使用して授業を行ったか。



○ 「いいえ」の36名中、22名が町内勤務1年目または、授業を受け持っていないと回答していた。

○ 13名は、存在を知らなかったと回答しており、昨年度からの引継ぎや、年度当初の紹介等がうまくいかなかった事実が伺えた。

また、研究所への要望や意見として、次のような回答があった。

- 研究所でどのような研究をされているのか、詳しく知りたい。
- 校内での研修をして、活用を図る必要がある。
- 地域素材を活用することはとてもよいことだと分かっているのですが・・・。
どういったら各学校で活用がなされるのかを研究の1つに入れてみてはどうでしょう。
- 子どもたちが調べられるような資料がほしい。

これらの結果から、学習指導過程については、ふるさと学習を進める上での見通しをもつことができること、学習指導過程や教師向けの地域素材集についての周知が必要であること、研究所の取組をもっと多くの教職員に知ってもらう必要があることなどが分かった。

(2) 研究所だよりの発行

アンケートの要望から、町内の教職員に研究所の取組をもっとよく知ってもらうため、「研究所だより」を作成し、全職員に配付した。

研究所だより

平成25年7月 日
高原町教育研究所

たいへん暑い日が続いていますが、毎日の仕事お疲れ様です。今年も高原町教育研究所の取組を先生方に知ってもらいたく、「研究所だより」を発行しました。よろしくお願いします。

研究内容の紹介

ふるさと学習

- 児童・生徒用の資料を作成する。
- 研究員が各自検証授業を実施して、資料を作成する。

今年度も「ふるさと学習」をテーマに取り組んでいきます。
内容としては、児童・生徒用の地域素材集の作成をメインに、一昨年作成した「総合的な学習の時間の指導計画・指導過程」の一部見直しをしようと考えています。

本年度の研究内容を紹介します、周知を図った。

アンケートの協力 ありがとうございます

6月に実施したアンケートについて、御協力ありがとうございます。結果は小学校4校、中学校2校の先生方から回答をさせていただきます。(結果は小学校4校、中学校2校の先生方から回答をさせていただきます。)

アンケートの結果や要望等の回答を載せ、アンケートの結果を教職員へ還元した。

1 「総合的な学習の時間の指導計画」や「各教科の指導計画」を1回でも使用して授業を行ったか。
はい・・・15名 いいえ・・・27名

○ 「いいえ」の27名のうち、21名の先生方は、「町内勤務1年目で、まだ授業をおこなっていない」、「総合的な学習の時間や各教科の授業を受け持っていない」という理由でした。

2 児童生徒向けの地域素材集の作成

(1) ねらい

一昨年度の研究で、総合的な学習におけるふるさと学習の指導計画・学習指導過程を作成した。また、昨年度はその内容に合わせた資料やワークシート等をデジタル教材としてデータ化し、教師向けの地域素材集として各学校に配付した。しかし、指導過程やワークシート等はあっても、実際に児童生徒が調べる段階になった際に資料や情報が十分でなく、満足に調べ学習を行うことができない、という課題が教職員によるアンケートから挙げられていた。

そこで、本年度は、調べ学習の際に児童生徒が活用できるような地域素材集を冊子として作成することにした。各ページには、その地域素材の場所を校区で示したり、関連する言葉の説明を載せたりするなど、より発展的な調べ学習へつなげられるよう工夫した。

(2) 具体例

地域素材集に記載した内容は次の通りである。

種 別	地 域 素 材
町のシンボル	○町木 町鳥 町花 町章
高原町の自然	○霧島連山 ○高千穂峰 ○御池（御池野鳥の森） ○たかはる温泉郷 ○たかはる清流ランド ○祓川湧水
史跡、神社・仏閣 埋蔵文化財	○霞神社 ○皇子原（産場石） ○霧島東神社 ○王子神社 ○狭野神社 ○神徳院の仁王像
郷土料理	○あくまき ○ねったぼ ○神楽そば ○煮しめ
歌	○高原町民歌 ○高原音頭
伝承	○狭野神楽 ○祓川神楽
神話・民話	○天孫降臨 ○大豆の神様 仁王さま ○霧島天狗とごんのかみ

(例) 地域素材「狭野神社」

NO.	めいしょう 名 称	さ の じんじゃ 狭野 神 社
ばしょ 場所	狭野小学校区	



きりしまろくしょごんげんしゃ
○ 霧島六所権現社の1つ。

○ 1234年の霧島山の大噴火によ
しゃでん
って社殿などが全て焼けてなくなっ
てしまい、一時は都城市高崎町へと場
所が移されました。

その後、1612年12月28日
に今の場所に戻されました。

【狭野神社】

○ 1716年9月から次の年の1月にかけて新燃岳が噴火したときに、再び焼けて
しまい、宝光院というお寺がある小林市細野に移されましたが、1721年にはま
た元の場所に戻されました。

しきちない てんねんきねんぶつ
○ 敷地内にある狭野杉は国の天然記念物に指定されています。

おたうえさい さ の か ぐ ら なわしろ だ さい
○ 春には御田植祭、冬には狭野神楽、苗代田祭などの行事が行われます。

(例) 地域素材「霧島東神社」

NO.	めいしやう 名 称	きりしまひがしじんじゃ 霧島東神社
ばしよ 場所	狭野小学校 校区	



- 霧島六所権現社（きりしまろくしょごんげんしゃ）の一つで、イザナギノミコトとイザナミノミコトをご祭神としています。狭野神社と同じく、霧島山の噴火でたびたび被害を受けて焼失し、現在の社殿は島津第25代大隅守継豊（おおすみのかみつぐとよ）が造営したものです。社宝として、天の逆鉾、島津久光公が書いた扁額（へんがく）があります。

かんれん

関 連することば

○ 霧島六所権現

- ① きりしまひがしじんじゃ 霧島東神社（高原町） ② さの じんじゃ 狭野神社（高原町） ③ きりしまみねじんじゃ 霧島峯神社（小林市）
- ④ ひなもりじんじゃ 夷守神社（小林市）＝霧島峯神社に移し、いっしょにして祀っている。
- ⑤ つま きりしまじんじゃ 東霧島神社（都城市高崎町） ⑥ きりしまじんぐう 霧島神宮（鹿児島県霧島市）

3 ふるさと学習の実践

(1) 授業のねらい

高原ならではの地域素材を生かした教科の指導を通して、ふるさとを愛する「たかはるの子」の育成を図るため、本研究所で作成した「教科におけるふるさと学習の指導計画・学習指導過程」に基づき、各研究員が検証授業を行った。

(2) 実践例① 小学校 第4学年 「社会科」

ア 単元名 「山ろくに広がる用水」

イ 単元の目標

- ・ 身近な地域に古くから残る用水路が果たしている役割に興味をもち、地域をよりよくしていこうと思うことができる。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・ 身近な地域の発展に尽くした先人の工夫や苦労について考え、まとめた表現ができる。 (社会的な思考・判断・表現)
- ・ 身近な地域の発展に尽くした先人の働きについて、調べたり、考えたりしたことをまとめることができる。 (観察・資料活用の技能)
- ・ 地域の先人たちが、地域の生産と生活と文化の向上のために、様々な工夫や苦心しながら取り組んできたことを理解することができる。 (社会的事象についての知識・理解)

ウ 本時の目標

用水路には、先人の努力と工夫で開発された足跡が残っている事に気づき、学習問題を設定することができる。

エ 主な学習活動と授業の様子

主 な 学 習 活 動	授 業 の 様 子
1 田植えの時の用水路について思ったことを発表させる。 ・ 人が作った用水路と自然の川の違いを知る。 2 学習のめあてをつかむ。 地区の用水路についてどのようなものか考えよう。	 川と用水路はこんなにちがうね。 学校のまわりの用水路をさがせたよ。
3 「田植え」をした実習田の用水路がどこに作られているのかを確かめる。	 【地図や写真をもとに、用水路の場所を調べさせる。】
4 用水路に先人の工夫や努力で開発された足跡が残っていることを話し合う。	 用水路の場所に色をぬってみよう。

5 調べたことをもとに、用水路についてどのようなものをまとめる。 6 用水路の本単元の学習問題を設定する。	 用水路のことで調べたいことは？
	(単元の学習問題) ☆ 児童が「こんなことを調べたい。」という内容を整理する。 ・ どのような場所に、いつごろから、「用水路」をどのように作ったのだろう。 ・ 用水路が出来て、どんなかつやくをしたのだろう。  グループの意見をまとめられたね。

オ 考察

- 副読本では、高千穂用水が取り上げられているが、後川内の校区にある用水について実際に見学したりインタビューをしたりして調べることができた。
- 地域の用水路を教材として開発することにより、児童とともに作り上げる学習に意欲的に取り組むことができた。
- 用水路と川の違いについて、児童はあまり分かっていなかった。事前に「用水路について知っていますか。」などのアンケートを実施して、なぜ用水路が必要だったかを考えさせる場面へつなげていくとよかった。
- 用水路を作った人々の願いや苦労を児童に考えさせるために、用水路ができる前のようすについてももう少し資料を準備しておく必要があった。

(3) 実践例② 中学校 第1学年 「社会科」

ア 単元名 「世界から見た日本の自然環境」

イ 単元の目標

- ・ 日本の地形や気候は世界各国と比較して複雑であることに興味をもち、意欲的に捉えることができる。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・ 自然災害を日本の自然環境や人間と関連付けて、多面的・多角的に捉え、防災の協力や工夫について考察することができる。 (社会的な思考・判断・表現)
- ・ 地球儀、地図、統計資料などから、日本の地形の特色や気候の分布を読み取ったり、白地図や雨温図などにまとめたりすることができる。 (資料活用 の技能)
- ・ 国内の地形や特色、暮らしに影響を与える様々な災害について理解する。 (社会的事象についての知識・理解)

ウ 本時の目標

- 自然災害にはどのような種類があり、それらを防ぐために、どのような努力がなされているか、調べ、まとめることができる。
- 高原町の防災対策について積極的に調べることができる。

エ 主な学習活動と授業の様子

主 な 学 習 活 動	授 業 の 様 子
1 災害のDVDを見る。	○ 生命や財産を奪う災害の恐ろしさを視覚的に捉える。 ○ 積極的な発表で学習への雰囲気をつくる。
2 日本に起こる自然災害の種類を調べ、ワークシートにまとめる。 ・ 環太平洋造山帯→地震、津波、火山、噴火 等 ・ 温帯→台風、洪水、干ばつ、冷害、高潮 等	○ 内容が理解できるようにワークシートにまとめ、グループで確認する。 
3 日本の災害対策についてワークシートにまとめ、発表する。 4 本時の学習課題を確認する。 高原町の防災対策について調べよう。	○ あまり、深入りしないように簡潔にまとめる。 
5 高原町にはどのような災害があるか、グループで話し合い、発表する。	○ 個人、グループの考えを明確にし、発表する。
6 高原町が行っている防災についての資料を見ながら、グループでまとめ、発表する。	○ 資料を読み取り、話し合い、まとめたものをグループの意見として発表する。 
7 地域の防災対策の実際について、本町災害対策本部の方から話を聞く。	○ ゲストティーチャーから町の防災対策について講話を聞く。  ○ 専門家の立場からグループの発表について評価していただき、自分たちの発表を振り返る。
8 学習したことについて、わかったことや感想をまとめ、発表する。	○ 自然災害の種類や防災計画についての人々の努力等についてまとめる。 ○ これまでの経験を振り返らせたり、今後、自分たちでできることを考えさせたりしながら、まとめる。
9 評価シートを記入し、次時の予告をする。	○ 本時を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。

オ 考察

- グループで話し合う場面を多く設定することで、他の意見を聞き尊重、賞賛する姿が見られた。
- 地域素材を活用した授業の実践を行うことで、生徒は火山噴火や防災をより身近な問題としてとらえ、住民としての意識が高まり、避難訓練でも適切な行動ができるようになった。
- 自然災害にはどのような種類があり、それらを防ぐために、どのような努力がなされているか、調べ、まとめることができた。
- 身近な地域の防災について、積極的に調べることができた。
- 地域のゲストティーチャーの講話を活用することで、より専門的な防災について知ることができ、防災に対する意識が変わった。
- 授業を通しての感想をまとめさせ、今後自分たちにできることを考えさせることにより、身近な防災に対する意識が変わり、行動を変えようとする思考が高まった。
- グループで話し合い、その後自分の考えを整理させ、もう一度全体での話し合う場面を設定すると、より考えが深化されるのではないか。

Ⅶ 成果と課題

1 成果

- 教職員へのアンケートを実施し、研究所が作成した資料等の活用状況や研究所への要望等を把握することができた。
- ふるさと学習を進めるにあたって、児童生徒が自ら調べ学習ができるように、児童生徒向けの地域素材集を作成することができた。
- ふるさと学習について、研究員全員が各自で検証授業を実践することができた。検証授業の成果としては、主に次の2点が挙げられる。
 - ・ 地域素材を提示することで、調べようという意欲面の向上が見られた。
 - ・ 昨年度まで作成してきた「総合的な学習の時間の学習指導過程」や「各教科における学習指導過程」の改善点等を把握することができた。

2 課題

- 研究所の研究内容や作成資料等を広く町内の教職員に周知し、共通理解・共通実践してもらうための取組の工夫が必要である。

【参考文献】

- ・ 平成24年度 調査研究報告書 教育研究論文集 (高原町教育委員会)
- ・ 高原町の文化財 (高原町教育委員会)
- ・ 高原町子どもセンター情報資料集「高原よかところ」
(高原町子どもセンター協議会)

平成25年度 高原町教育研究所 研究同人

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
教育委員会	所 長	江田 正和	狭野小学校	教 諭	森 茂人
教育総務課	研究指導員	濱砂 敬三	後川内小学校	教 諭	柿並 祐次
高原小学校	教 諭	福留 真耶	高原中学校	教 諭	白山 和憲
広原小学校	教 諭	中別府 靖	後川内中学校	教 諭	内丸 陵子